

新経済圏・中央アジアに向けて、躍進するトルコ

首都・イスタンブールが東京やマドリードとともに、2020年夏季オリンピックの招致合戦を繰り広げたことで記憶に新しいトルコ。旺盛な個人消費を背景に経済成長を続ける半面、堅調な内需で輸入が輸出より多いこともあり、経常赤字が課題となっています。

このためトルコ政府は輸出産業の育成を目指しており、投資優遇策をテコにした海外製造業の誘致に積極的に取り組んでいます。これにより、輸出全体の約4割を占める最大の貿易相手であるEUへさらなる輸出拡大が期待されています。

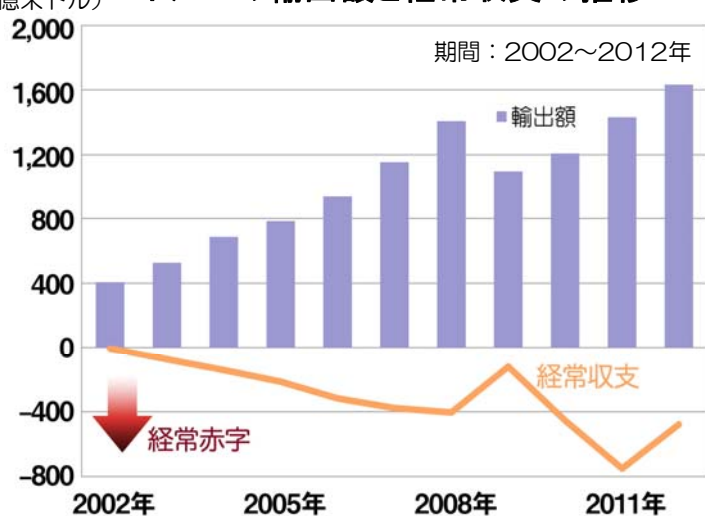
また、新たな経済圏として注目される中央アジアへのハブ拠点としても、存在感を強めています。ダイキン工業のトルコ法人は、マンション建設が好調なトルクメン地域へのエアコン出荷が急増しており、2012年の輸出額4,500万ユーロのうち、中央アジアやカフカス向けが2割を占めました。

タジキスタンを除く中央アジア4カ国*ではトルコ語系の言葉が使われているなど、民族的なつながりもあり、今後も経済関係の強化が進みそうです。トルコを取り巻く欧州、中東、中央アジア、北アフリカの市場規模は全体で約12億人にも及ぶことから、トルコの輸出拡大への期待は大きく、トルコ政府では「共和国100周年祭」の2023年までに5,000億米ドルの輸出高を目標に掲げています。

*「成長国」とは、ゴールドマン・サックスが提唱する今後世界経済の成長を牽引するであろう8カ国(ブラジル、ロシア、インド、中国、韓国、トルコ、メキシコ、インドネシア)を指す。

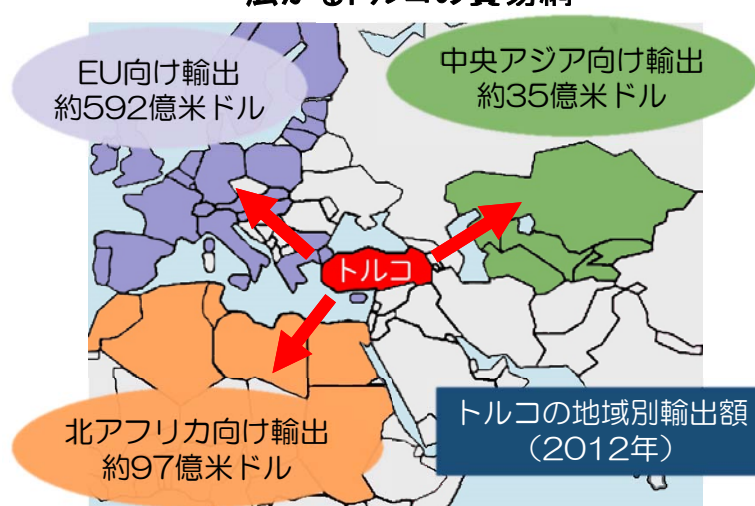
*トルクメニスタン、カザフスタン、ウズベキスタン、キルギス

(単位：億米ドル) **トルコの輸出額と経常収支の推移**



(出所) トルコ中央銀行

広がるトルコの貿易網



(出所) トルコ統計局

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。個別企業あるいは個別銘柄についての言及は、あくまで例示をもって理解を深めていただくためのものであり、当該個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等を推奨あるいは勧誘するものでもありません。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(Ⅰ)複製、写真複製、あるいはその他のいかなる手段において複製すること、あるいは(Ⅱ)再配布することを禁じます。

<審査番号：114653.OTHER.MED.OTU> © 2013 Goldman Sachs. All rights reserved.